

那加二東部 福祉だより

第49号
平成30年3月31日発行
編集・発行
各務原市社会福祉協議会
那加二東部地区



新しい地域づくりに向けて
福祉座談会
十月二十五日(水) 五二名参加

今後の地域づくりの中心となる生活支援コーディネーターの市社協・土屋さんの講話を聴きました。現在の介護保険サービスでは、増え続ける高齢者を支えることが難しくなっています。そのため民の力や知恵を取り入れながら、地域と行政とが話し合い、実行していくことが喫緊の課題になっています。住み慣れた地域で楽しく暮らし続けられるために、地域と行政の協働による地域づくり、地域全体で支える仕組みを考えていく必要があります。自助・共助(近所)・公助の観点から、グループ討議をし、できることややってほしいことなどの洗い出しをしました。



笑った、そして歌った!
地区福祉交流会
十二月八日(金) 一〇〇名参加

午前の部では、市民講座で活躍中の「茂益亭蝶代」さんの落語を観賞しました。特に人権週間にちなんでの創作物は大笑いで、時間の経つのも忘れてしまいました。



午後は、設立二十周年を迎えた地域楽団「ブルーベリーズ」によるパノド演奏を楽しみました。「故郷」を初め、童謡・唱歌・民謡・歌謡曲など全十六曲を聴いたり歌ったりしました。懐かしい歌が多く、心が和んだひと時でした。やはり聴衆参加型の出し物は好評です。



認知症サポート養成講座
近隣ケアグループ研
六月十五日(木) 七十七名参加

親子ふれあい映画会
七月二十八日(金) 一〇九名参加

えい画「ホートン」を観て
桜町一 諏訪 陽音(小四)

主人公の象ホートンは、やさしい勇かんだ、決してあきらめない強い心の持ち主だと思えました。彼はある日、ほこりの乗った赤いクローバーを見つけました。そしてそこから小さな変な声を聞き取りました。ほこりの中にあるダレダーレ国の市長の声でした。市長は国が危ないことを伝えていました。ホートンの集中力に感心です。

あなたの体、元気?
健康増進教室
平成三十年一月十二日(金) 四二名参加

恒例の自立体力を談笑しながら測定しました。歩行・身体調整・手作業・姿勢変換の四種類です。毎年参加していれば、今までの記録と比べることが出来ます。やはり知らない間に進んだ体力の衰えを確認することができ、生活を見直すきっかけになりました。元気で健康で、人様に迷惑をかけるないで長生きしたいものです。



母親カンガルーは、ほこりから声が聞こえるなんて信じられず、彼に「うそを言うな」「ジャングルの平和を乱すな」とおこり、いろいろとじやまをしました。

でも彼はほこりを安全な場所に移動させるために、旅に出ました。たとえつかれていても、危険な事がたくさんあっても、何日もその国のために歩き続けました。ほくが一番びっくりしたことは、オオワシにクローバーをぬすまれて、一面のクローバー畑に落とされた時に、日が暮れるまでひたすらさがし続けたことです。そして三百万本目で、ほこりの乗ったクローバーを見つけ出しました。彼のあきらめない姿がかっこいいなと感じました。ダレダーレ国では、市長が国の危機をくり返さうたえても、だれにも信じてもらえませんでした。それでも言い続ける市長はすごく勇気があるなと思いました。ほくだったらバカにされたら、恥ずかしくてそれ以上言葉が出ません。最後は、ホートンの声を市民達が聞くことができ、信じてもらえてよかったです。その頃ホートンは、母親カンガルーとジャングルの動物達にとらえられ、ほこりの乗ったクローバーを取り上げられてしまいました。でも彼は「ほこりみたいになくさくたつて、人は人だ。困っている人がいれば、助けなきゃ。」とうったえました。ほくはこの言葉に一番感動しました。

映画「ホートン」をみて
織田町 谷川 愛奈(小二)

主人公のゾウ、ホートンが小さな国(ダレダーレ)をがんばって守るすがたにとても感動しました。私はお父さんやお母さんの言うことを聞かないことがあるけれど、彼は母やおカンガルーにいやなことを言われても、じまされてもおおらずに返事をしていたので、すごいなあと思いました。そして一番すごいと思ったところは、おりの中に入れられ、今にも命が無くなりそうなのに、ほこりにある小国の市長とのやくそくを守るうと、れんらくをとりつづけたことです。決してあきらめなかったことです。いじわるなカンガルーの仲間になった動物たちにも、一人でうったえつづけたことです。彼のゆう気をみないたいです。

映画をみながら、(がんばれ、ホートン。あきらめな、ホートン)と心の中でさけんでいました。小国を助けたこと、ジャングルに平和がもどってとでもうれしかったです。となりにいた姉もえがおでした。私はホートンがとても好きになりました。彼がやさしくて、強くて、すぐあきらめないからです。私も友達に親切にしたり、いけないことをしている子に注意したりできるようにになりたいです。また、家ぞくや大人、先生や仲間の話に耳をかたむけて、人にめいわくをかけないようになりたいです。



彼は自分のことよりもダレダーレ国のほうが頭にあり、大切だと思っています。ほくは自分自身が一番大切だと考えているので、彼のやさしさ、思いやり、約束を守ろうとする心の強さに拍手です。市民達はジャングルのみんなに聞こえるように、力を合わせて大きな音を作り続けました。そしてもうだめというところで、カンガルーの子にもその声や音が聞こえ、ホートンもほこりも助かりました。子どもは母とちがって、彼の言うことをうそと決め付けていなかったのです。ホートンや市長の行動から学ぶことは、「声をあげる勇氣」です。協力してくれる人がいるはず、たとえ一人でもできないことだって、仲間と助け合えばできるはずと信じます。一つの物事を決めたら、決してあきらめないで最後までやりぬきたいです。



私の住む町から

今回は、門前二・門前三・門前四・楠町一
楠町二自治会を紹介します。



わたしのタカラモノ

門前二 大橋 渡

ごく稀に、無限大に広がる宇宙の事、この宇宙の外にはまた異なった宇宙があるのかなど色々瞑想する・タイトルは「タカラモノ」か「ヒヨコ」にしようか思案しました。自治会行事を振り返ると、春は子ども神輿で町内をワッショイで和気藹藹のお祭りだ。夏は三世代ふれあい交流会で、お年寄りから子ども達が集まって自主防災訓練やクロリテイ大会等を、秋には・・・があり参加者達がひとつになって楽しく過ごす。

子どもが成長し就職して地元を離れるといつしか思い出が薄れて、そして、新しい場所で、その繰り返し・・・。

大先輩方々の中で、ヒヨコみたいなのが務まるかなあと思いつつ、でも、皆さんは色々な行事に参加し、快く接してくれました。皆さんの心の中のタカラモノを垣間見ることができました。目に見えない貴重なタカラモノです。

カラモノです。

この宇宙のように無限大に広がり、住みやすい街になれば良いですね。



高齢者の行事参加を考える

門前三 末松 誠榮

少子高齢化が問題になって何年も経ちましたが、私達門前町三丁目自治会でも同じような有様です。十二月、恒例の「三世代ふれあい

それぞれ付き添いながら帰宅。車椅子の利用も、視野に入れるべきかなと感じました。普段から顔を合わせることが、緊急時に助け合えると実感しました。



三世代ふれあい

楠町一 松原 愛加

十一月十二日(日)に、毎年恒例の行事「三世代ふれあい」があり、町内のシニアクラブ、近隣ケアの皆さん、子ども会員やその保護者たちが参加しました。総勢六十人ほど集まり、クロッケーゴルフ、輪投げ、缶ポリングをして遊びました。

三世代が混じったチームに分かれて楽しむので、普段顔は見えない近所の方とのふれあう場となり、いい交

流ができています。ゴルフがしやすいようにと、自治会の方たちが事前公園整備をしてくださいました。遊んだ後には近隣ケアグループによる手作りの豚汁をいただき、本当に美味しかったです。自治会の皆さんは、平生から子ども達を大切にしてください。とても感謝しています。これからも続けていけるといいな、と願う温かい行事のひとつです。



盛り上がった

三世代ふれあいの会

楠町二 大堀 幸信

秋晴れの十一月十二日(日)に、「三世代ふれあいの会」を、賑やかに開催することができました。子ども会の小学生とその父母、シ

芋煮会」を催したところ、子ども会は親子で八組参加があり、具材の野菜類を切ったりしてくれました。近隣ケアの皆さんは味付けや芋炊きを担当し、おいしい芋煮ができました。高齢者はと言うと、六人程度で、寂しい限りでした。事前の連絡も悪かったのか、もう少し来て頂けたらと、子ども達・一般の方・役員一同も思ったところでした。やはり体のは致し方ないと、改めて感じた次第です。

今後も各種スポーツ、特に走ったり跳んだりというような活動は益々難しくなると考えると、行事の内容を考慮しなければ思うことしきりです。



ニアクラブや近隣ケアの皆さん等多くの参加がありました。六グループに分かれて、クロッケーゴルフ、クロリテイ、缶ポリングの三種目で得点を競い合いました。ホールインワンやストライクなど好プレーの続出で、大変盛り上がり大きな歓声や拍手が何度も起こりました。ゴルフの仕方を小学生に教える大人など、ふれあう姿もたくさん見ることができました。

その後、近隣ケアさんによる手作りのおいしい豚汁とお弁当で楽しく会食しました。

最後に成績発表となり、また大きな拍手と歓声が何度も起こりました。子ども達も大いに楽しみ、シニアの皆さんも大活躍の一日でした。



甥田町地区の避難

門前四 前島由紀子

昨年十月二十二日(日)、台風二一号による大雨の結果、甥田町に「避難準備・高齢者避難開始」が出されました。この文章は、民生児童委員としての雑感です。

夜間に新境川の水位が上がり、前述の呼びかけがありました。

介助ができるように身支度をして、現場へ直行しました。場所は小学校給食室北側と特支援学校に通じる道路です。よく冠水する道で、膝上まで増水していました。学びの森方面からも水が来ていました。

すでに自治会長、前会長、近隣の方々が見守り、連携されていました。近くの歩行困難な方に声かけし、避難場所の「那加福祉センター」に行きました。既に三十余名の方が避難。地元消防団員、市職員の親切な応対で、皆様は比較的落ち着いてみえました。近所同士のおしゃべりも活発でした。センターには多数の座布団、毛布、タオルが用意されていました。

その後、幸いにも小降りになり、又消防署が排水装置で溜まっていた水を川へ流していたため、床下浸水の被害も出ませんでした。早朝三時頃より、安全が確認され、帰宅が始まりました。歩行の方はそ

「わあ、カッコいい!!」 高齢者ふれあい交流会

十月十日(火) 九六名参加

初参加の人が増えた、メディアの取材が特筆すべきことでした。



午前では、「ナツメロ歌謡宅急便」(五名)として六曲聴きました。その歌手になりきったコスチュームと小道具が工夫してあり、とても楽しい一時間でした。

午後は、「みんなのマジック各務原」(四名)による手品を満喫しました。「あれっ?」「すごいな」という声の連続でした。

ストロー二本を使ったマジック、脳トレ向きの絵合わせを教えてもらいました。誰もがマスターしようと真剣そのものでした。

